

金

Aブロックにエントリーされた全12作品を公開します。

覇者となったのは果たして誰??

<http://www.columnland.net/> にてごらんください。

問 次のカタカナの部分を漢字になおしなさい。

彼はキン|ヨクを貫いた。

金
欲

うさぎ、くたはく、うさぎ

ある採点官の悩み、世の中そりゃそうだけど

戦闘民族の頭髮

頭髮の色を一瞬のうちに変える事のできる一族がいる事をご存知だろうか。その一族の間は普段は東洋人のような黒い頭髮をしているのだが、大声とともに体に力を入れる事により、美しい金髪に変化する。気になった我輩はその一族の頭髮の変化の仕組みを我輩なりに考察してみた。

第一の我輩の仮説は 一瞬のうちに髪の毛をブリーチしている というものだ。あの一族が力を入れたときに出る彼らを取り巻くきいろの何か。あれは実はブリーチ剤なのではないかという考えだ。ブリーチ剤の主成分は過酸化水素と濃いアルカリ溶液。脱色の過程はアルカリ溶液が表面のキューティクルをふやかし、過酸化水素が黒色の元であるメラニン色素を酸化し粒子を小さくする事によって無色に見えるようになる。よってブリーチ剤が体中を覆っていれば変色は可能であるのだ。しかしここでいくつかの問題が浮き彫りになった。ブリーチには最低二十分はかかる。そんな長い時間をブリーチは待ってくれない。両手は使わないでおいでくれるかも知れないけれど。それ以前の問題は、強いアルカリ溶液と過酸化水素水が体中を覆っているという事実だ。からだ全体がひりひりしてセルと戦っている場合ではなくなるだろう。この時点で我輩の第一の仮説は光を失った。

第二の我輩の仮説は メラニン色素の大きさを自由に変える事ができる というものだ。地球上の一部の生物は、メラニン色素の粒子の大きさを自由に変える事ができ、それによって擬態する事ができる。カメレオンが一例としてあげられる。この説が正しければ、一瞬のうちに頭髮を金色にする事が可能なのだ。さらに色素を操る事ができるならば目の色を青くする事も当然可能であって、この説はこの説は一見正しいように思えた。しかしここでまたしても問題が浮上したのだ。本来 毛 というものは、死んだ細胞の集合体である。我輩の説を受け入れようとすると、頭髮は生きている事になる。神経が通っているという事になるのだ！もしそうならば、頭髮を切るという行為は人体を切断するという行為に等しい。壮絶な痛みと引き換えに散髪に通う。これでは、散髪が一生の決断に変わってしまうのではないか。しかしさらに思考を巡らすうちに我輩はその昔エム字ハゲが語っていたある重大な事実を忘れていた事に気づいた。彼らはあまり髪が伸びないのだ！普段髪型が変わらないのもこれで説明がつく。あの一族は頭髮に肉がついているに違いない！やった！世紀の大発見だ！我輩は歴史に名を残した科学者としてこれからの人生を歩むのだ！

トウルルルルルルルル

もしもし？NATURE誌の方ですか？

えっ？あれってフィクションなんですか！？

石壁

カリフォルニアの静かな田舎町のはずれで、一人の老人に出会った。老人はきれいに磨かれた石壁に文字を彫り込んでいた。僕は車を降りて、老人の作業を眺めていた。

かつて、この地に何十万という人が押し寄せたことがあった。フォートイーナイナーズと呼ばれた彼らは、遠く離れた東部から何十日もかけてここへたどり着いたという。彼らは昼も夜も土を掘り続けた、すべてはこの地に眠るはかり知れない富を求めて。彼らは目の前に出された、文字通りの一獲千金の夢に、飛びつかずにはいられなかったのだ。

老人はゆつくりとした手つきで、ていねいに、彼らの名前を壁に刻んていった。大地を焼き尽くすような太陽の下、茶色に染まった山が老人の背景に広がる。グレーハウンドがスピードを上げて、道を通り過ぎていった。

結局、採掘者たちは、夢をつかめなかった。彼らの多くは、挫折するか、志半ばで亡くなった。むしろ、後世まで名前を残すような偉大な成功をおさめたのは、採掘家とならなかった人たちだ。マーク・トウエインは鉱夫たちの話を文章に書いた。リーバイ・ストラウスは鉱夫たちのためにテント生地で新しいズボンを作った。彼らはなぜ成功したのか？彼らは、金を採掘するのではなく、採掘者たちを採掘したのだ。見せかけの夢へと流れる巨大な流れの中で、ふと立ち止まり、周りを見渡して、どう振る舞えばいいのか気づいた、あるいは知っていた人たちなのだ。

日が傾きはじめても、老人はその退屈な仕事を続けていた。道を急ぐ人たちのほとんどは、道のわきにある小さな石壁など目にも留めないだろう。ただ、ふと立ち止まり、この石壁に気づいた人だけが、歴史の証人たちの名前を見つけることができる。

金は天下を回す物

時は200X年、日本は未曾有の危機に瀕していた。世界最高ともうたわれた日本貨幣の偽造が相次いだのだ。

―国会にて

「総理！一刻も早く偽造を止めなければ日本経済は破綻してしまいます！」

「総理！この様な事態になるまで事件を放置した責任についてどうお考えですか！」

「ちつ、うるさい共民党の下衆どもが。政権を取れないのをいいことに好き勝手言いおつて」

「総理！」

スツと総理は立ち上がった。そのなみなみならぬ気迫に議事堂は静まり返った。

「私に秘策がある。今は何も言わずついてきて欲しい」

―そしてひと月後

偽造貨幣は日本中から一掃されていた。総理の策である

『ジャガイモを貨幣として使用する』

が功を奏したのだ。政府が普通のジャガイモに特殊な処理をほどこした5種類のジャガイモ(超ジャガ)、一円⇨赤ジャガ、十円

⇨青ジャガ、百円⇨黄ジャガ、千円⇨黒ジャガ、一万円⇨白ジャガ、が新たな日本の貨幣となった。

当初は誰もが疑問に思っていた。

「果たしてジャガイモ如きに貨幣という大役が務まるのか？」

と、だが、ジャガイモは立派にその職務をやつてのけた。携帯性は政府が同時開発した4次元ポケットが解決してくれたし、この超ジャガは高い防腐蚀性を備えていた。そして偽造対策も完璧だった。

この超ジャガを偽造しようと試みた犯罪集団(許可無き超ジャガの生産は殺人と同等の重罪である)は数多あった。だが、超ジャガを光にかざすとなんととも言えぬ良い香りがするという、匂いすかしを再現できなかったため、ことごとく撃退された。

だが、この超ジャガ貨幣導入にも欠点はあった。ジャガイモ特需による地域間格差が拡大したのだ。特に、ジャガイモ列強である北海道の増長っぷりは目に余る物があった。

「道産子(どさんこ)にあらずんば人にあらず」

と言わんばかりの北海道人の態度に、人々は激怒。その結果、全国的に道産子に対する差別がまきおこり、道産子は出身地を隠すというかつての部落差別のような事態も発生した。

そうして、日本の貨幣事情は完璧かと思われた。だが、悲劇がおこった。原因はまたもや北海道である。裕福になった道産子はよりよいジャガイモを作ろうと努力した。そうして失墜した自らの地位を高めようとしたのだ。そして生まれたのが、生で皮まで食べれるすくくおいしいジャガイモである。その結果、日本国民は我慢できず超ジャガが食べてしまい日本は深刻な貨幣不足に陥った。

そうして日本はまた未曾有の危機に直面した。

「総理！」

「私に策がある。りんごを貨幣にするのだ！」

朝食のソーセージeggマフィン 300円

初めて買ったギター 二万円

奮発して買った32型液晶テレビ 十万円

単位のためにこれを書くのにかかった時間 priceless

お金で買えない価値がある。買えるものはクレジットカードで。

海賊

彼らは巨大な船に海賊旗を掲げ、羅針盤を頼りに、海のどこかにある金銀財宝を目指し、七つの海を冒険した

そんなイメーじ。これは勝手な俺の中のイメーじ。だけど本当はそんなじやなかった

街を襲って略奪を繰り返す、逆らったら皆殺しの本当に悪いやつら。やっぱりフック船長は悪いやつ

けど僕は、海賊にあまがれたイメーじの中の海賊の冒険に

でもね、あれは大航海時代のお話

今の時代勝手に海に船出しちゃいけないし

間違っただけの方は入っちゃったら撃ち殺されちゃう

だいたい船って相当高え

海賊旗は俺のTシャツ。でっけえドクロ柄のやつ

ついでにドクロマーク入りのメッシュキャップを被ったりして、気分はデブ様

航海士は俺のケータイ。GPSは現代の羅針盤

自慢の船は三段ギア付きのチャリンコ

それで、7つの(商品の)海(コンビニ)を渡り歩き、略奪…はしません、いけません。

その代わり、目的のものはごそり頂きます。

買占めましたチヨコボール

さくさく美味しいピーナッツ

食いきれませんキャラメル味

きんのエンゼル きんのエンゼル おもちやのカンツメ

金 銀 財 宝

を手に入れる旅。

それが俺のちよつとした冒険

大人買いで何ケースも買っても金のエンゼルはめったに出ません

買ったあとにやってきたのは大後悔時代…なんつって

ミツカン様へ

「金のつぶ食べよー♪」

「うわ、いきなりなんだよ？」

「金のつぶってすごくない？」

「何が？」

「だって臭わないんだよ？納豆の最大の弱点ともいえる部分をなくしたんだよ？革新的じゃない？」

「まあ、そりやそうだけど…」

「でもさあ、全然金色じゃないよね？モロ茶色じゃん？詐欺じゃない？訴えたら勝てるかな」

「いや、茶のつぶじゃ売れねーだろ…」

「まあ、私はどっちにしろ、粘っこいのがダメだから納豆は食べられないけどね」

「は？さっきの話は何？」

「つまり次はねばらなっとうを出してほしい！」

「でねーよ！つーかそれもはや納豆じゃねーから」

「そうかな？」

「そうだよ！」

一番じゃない

オレは今ホストをやっている。高校を卒業するまでは運動部に所属し、勉強にも励んでいたから勉強と部活以外のことをする時間がなかった。けど大学に入ると暇ができ、自分で稼いで親に迷惑をかけるようになるためにホストというバイトを選んだ。当初のホストになった目的は、ちよつとした金稼ぎだった。

この世界に入ってオレは人の醜さを目の当たりにした。金のためなら何でもするし人の人生くらい平気でつぶせるようなホストばかりだった。対して、客の中にもホストに土下座をさせたり罵倒しまくる人もいた。とにかく、汚い奴らばかりだった。テレビでホストのドラマをやってたが、現実はあるな生ぬるいものではなかった。

オレは若いにもかかわらず入店してすぐに指名が沢山入り、3ヶ月でトップ3にまでのぼりつめた。稼ぎはどんどん増えていくが、それと同時に仲間からの脅迫や抑圧も激しくなってきた。ここでオレは考えた。これ以上深入りしたらもう抜けられなくなる。引くなら今しかない。けど、何をすることも一番じゃなきゃ気が済まない性格のオレはトップになる前にやめるなんて考えられなかった。一番になりたい。単純にそう思った。当初の目的の金稼ぎもあるし、一番になるためにガッツリ稼ぐようになった。苦手だったドンペリコールも覚えたし太客もいる。これまでは汚い事はしなかったオレも金と一番になる為に枕営業や色恋など様々な手段も使った。とにかく、一番になりたかった。奮闘すること3ヶ月、オレはついにトップになった。達成感と金でいっぱいになった。

ここでふと自分の周りを見渡した。頑張ってた大学ではもはやオレの居場所はないし体はボロボロだし友達は減り逆に敵は増えた。手に入れたのはどうでもいいトップの座と有り余る金だけだ。金欲しさが一番になりたくて頑張った結果、大切な物を失う形になった。こうなった根本的な原因は、金だ。オレは思った。金は、一番じゃない、と。

二人の男がいる。片方はヘタレで、片方は太った眼鏡だ。

「なんかさー、おまえら最近冷たいよな。」

「当たり前じゃん。」

「ちよつとおまえんちの人を連れ込んだり・・・」

「じつはそれ、犯罪。」

「ちよつと危ない物作ったりしただけなのに。」

「ちよつとじゃないよね。」

「うち貧乏だからさ、仕方ないじゃん。おれも寿司とか食いたいよ。」

「仕方なくねえよ。しかもお前、昔うちの庭に変なもん撃ったじゃん。」

「つい出来心で・・・」

「ありえねえ。」

テポドン

「もの足りない？じゃあもう一本いっとく？」

「やめろー！」

先輩には引退の後あまり会っていなかったから、今こうして一緒に帰るのは久しぶりの事だ。

「どうやら最近会話に飢えていたらしい先輩は、やたらと弾んだ調子でどんどん喋る。俺はそのテンションについていくのが大変で、友人相手のようには話ができない。」

まあ、もともと軽々しく声をかけられたわけじゃないけど。

「でさあ、予備校の先生がほんとにキヤラ濃いわけ。声でかくてうるさくてさあ、あれじゃ集中できねえし」

この人は、またこんなとりとめのない事を言う。俺はその一つ一つにうなずいて、ぼんやりと答えを返すのが精一杯だった。こうして話を聞いていると、ただのふざけた人にか見えないうのだから不思議だ。

けど俺は知ってるんだ。とてもまねできないような、この先輩のかっこよさを。

朝練の始まる前には誰よりも早く来てフォームを確認し、夕方の練習の後には一番遅くまで残って基礎練習をしていた。

そして試合の一回一回で絞り出した、全力の声援。戦況を見つめるときの、期待と不安の混ざり合った眼差し。一度だつて選手に選ばれなかったのに、弱音を独りで飲み込み続けて部員皆に見せてくれた、まぶしいまでの笑顔。

そんな俺には届かない姿ばかりが、頭に浮かぶ。

しばらく歩くと先輩は予備校に行くために道を曲がることになり、恥ずかしいくらいに大きく手を振りながら駆けていった。先輩を見送って俺は一人になった。

結局言いたいことは、何一つ言えなかったな。

ため息をついたら、急に周りの景色が目に入ってきた。夕方の空は赤く染り、あたりの住宅も同じ色を映している。その薄明るい空に、光り輝く星を見つけた。

あれは金星、宵の明星じゃないか。

途方もなく遠いところで瞬いているのに、俺に笑いかけている気がした。

先輩、俺今怖くてたまらないです

あなたの伝えたものを、もろさず受け止められていたのか
後輩たちに、大事なものを伝えていけるのか

俺なんか、先輩のようになっていけるのか

怖くて足がすくんで、けどそれでも進んで行きたいんです

たとえ先輩には届かなくても

また会えたとき、今より少しでも近い気持ちで話がしたいから

何度も声にしようとして、そのつど押し殺してきた。こんな気持ち、伝えてどうなるものじゃない。だから今までずっと口にはしなかったし、これからもそのつもりだ。今の俺じゃあ、まだ先輩には遠すぎる。

もう目をそらして帰ろうとした、そのとき

明星はもう一度、瞬きを送ってくれた。

事件

お金持ちだったひなな...

ママは妹を誘って入ったサレシ屋で

好きな服を買った

と

幸せだった頃のひななは

友達の優しさを

救われる心

を知らずに生きていた

ひなな

人の温かさは

お金じゃ買えない

ひななは

© 藤井

金井と金子

今日はいいつ休みかな。なんていつものように無駄な期待をしていると、教室に金子が入ってきた。また遅刻ぎりぎりだ。あちい、とか言いながらだるそうに自分の席、つまり僕の後ろにどかっと座った。いつもの蹴りの挨拶はなかった。体調でも悪いのか俯いている。

よかった。今日はいくらかましな日になりそうだ：

金子は俯きながら、前の席の金井のことを考えていた。金子は正直金井を嫌っていた。根暗で弱々しい、それが彼の評価であり、よく金をたかっていた。

そうだ、昨日もちよつと金を借りようとして、それでその時に俺は：

*

キーンコーンコーンコーン・・・

放課後の教室に6時を知らせるチャイムが響いた。生徒はみな、帰宅したか部活をしていて、教室には僕だけだ。変だな、と僕は思った。今日あいつは少しも僕をいじめてこない。と、ちようどその時ドアがカラカラと開いた。金子だ。やばい、2人きりになってしまった：

しかし金子はなにをするでもなく僕を無視して窓から外を眺めた。なにやらぶつぶつ呟いている。

俺のせいじゃ…あれは事故だった……

様がおかしい。なにがあったのだろう。金子は呟きながら、鞆から彼のブランド物とは違う少し汚れた財布を取り出した。

僕のだ！なんであいつが持つてるんだ！

昨日も確かあいつにたかられて、財布からお金を出したのは覚えてるけど…

突如金子ははつきりと聞き取れる声でしゃべり始めた。

金井が悪いんだ！なかなか金をださねえから！財布奪ってちよつとこずいただけじゃねえかよ…！俺は何もしてない。あのバカが勝手に窓から落ちたんだ！

思い出した。昨日のこと。窓際であいつにたかられて、一発殴られてバランスを崩して僕は、

教室を振り返り、僕の机をみると花が数本活けてあった。少ししおれ始めた花が夕焼けに染まり始めている。

そうか、だから今日は何もされなかったんだ。たかられなかったんだ。そうか…

金子は窓から僕の財布を投げ捨てると、小走りに出て行ってしまった。

教室には誰もいなくなった。

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	ある採点官の悩み～世の中そりゃそうだけど～	5 pt	7 位	2 sp
		<p>発想よし！ レイアウトよし！ 人生観よし！ 小学生の爆笑解答のような、とても楽しい今週の表紙でした。</p> <p>特別賞：すれた大人にしないようにしま賞（初問題形式）/丸で賞（フォントが丁寧、おもしろい）</p> <p>イチオシフレーズ：「金欲」× 3</p>		
A02	戦闘民族の頭髪	20 pt	2 位	5 sp
		<p>ドラゴンボールのアカデミック解説。がっつり科学的なところが読者層を意識。</p> <p>その昔(=1991年)、『ウルトラマン研究序説』なんてのが流行って、その時以来ですね、こういうジャンルができたのは。</p> <p>NATUREなんぞで落とさずに、がんばって一冊にしてベストセラーを目ざしてくださいませ。</p> <p>特別賞：サイヤ人賞（真剣なバカ）/M字ハゲ賞（メラニン色素がツボに）/the東工大生で賞（アホらしさが東工大生らしいから）/マニアック賞（話がとても論理的）/ドラゴンボール賞（ネタが良い）</p> <p>イチオシフレーズ：「エム字ハゲ」「フリーザは待ってられない」</p>		
A03	石壁	8 pt	6 位	1 sp
		<p>遠い歴史になってしまったがゆえに語れる悲しい過去がある。欲に駆られた人間たちと嘲笑するのはカンタンだけど、その言葉はすぐさま私たちに返ってきて.....</p> <p>そんな自省の思いに誘われる、遠くまでしっかり視線が届いた作品でした。石壁の文字という具体的なイメージが、うまく効いています。</p> <p>歴史する視線、またぜひこんな静かな作品を。</p> <p>特別賞：文章がうまいで賞</p>		
A04	金は天下を回す物	22 pt	1 位	2 sp
		<p>うまいなあ。タイトルでいきなりはじめて、勢いよく本文へ。超ジャガ、赤ジャガ、白ジャガ 匂いすかしに道産子差別。いや発想力、おみごとでした。</p> <p>そして、読み終えて後に残るのは、貨幣って何？ という人類通有の重～い問い。</p> <p>おもしろくって哲学もちゃあんとある、なかなかグレートな作品でした。戦闘民族の猛追を振り切ったの首位、おめでとう!!!</p> <p>特別賞：ジャガイモ賞/5千円がない賞</p> <p>イチオシフレーズ：「道産子にあらずんば人にあらず」</p>		
A05	金欠一人暮らし	0 pt	11 位	0 sp
		<p>CM風。ぱっぱっぱと絵で見せて、さくっとキャッチコピー。</p> <p>流れはできてるけれど、値段表記など、より細かくリアルにすると楽しさがもっとふくらむのでは。</p> <p>イチオシフレーズ：「単位のためにこれを書くのにかかった時間 priceless」「お金で買えない価値がある」</p>		
		9 pt	4 位	1 sp

A06	A tale of an adventure	<p>海賊気取ってチャリンコで出港！ 落差がユーモラスでフォントの対比も小技として効いてます。後悔など恐れないのが冒険心。夏へ向けてボン・ボヤージュ！ 夏と若さが全開の爽快な作品でした。 特別賞：大航海賞（おもちゃの缶詰をGETしたことがあり共感できたから） イチオシフレーズ：「大後悔時代...なんつって」×2 「金（きんのエンゼル） 銀（ぎんのエンゼル） 財宝（おもちゃのカンヅメ）」</p>
A07	ミツカン様へ	<p>0 pt 11 位 0 sp</p> <p>コント風。ノリも上々。 なによりの良さは、納豆へ行ったのは75人のうち、ただ一人という天涯孤独のユニークさ。その発想力をたたえて賞品は納豆にしよう！という機運が一時盛り上がったのは秘密です。</p>
A08	一番じゃない	<p>1 pt 10 位 0 sp</p> <p>ドンペリコールとかディテールをよく調べてあるなあ、と感心。豆知識が増えました。 ラスト1行、「金は、一番じゃない」。ずしりと哲学入ってますね。しっかり着地はしたけれど、ストーリーがシンプル過ぎの感があるので、この真逆の人生と対比してみてもおもしろかったかも。</p>
A09	とある総理大臣と総書記の会話	<p>9 pt 4 位 1 sp</p> <p>お約束のノースコリア・ネタ。A B一つずつお出ましです。 会話で聞かせて、国家間の重大事なのにご近所トークに化けちゃった落差がおもしろさでした。 特別賞：テポドン賞（インパクト） イチオシフレーズ：「じゃあもう一本いっとく？」×2</p>
A10	スーパースター	<p>10 pt 3 位 0 sp</p> <p>スポーツものには、なぜか夕陽がよく似合う。これはその上に、宵の明星まで連れてきていただいたので、まさに無敵の感がありました。 少し先を行く先輩の背中を真っ直ぐ見つめて歩いてゆく気持ち。読者もしっかり連れてゆく共感パワー大の語りです。特に、ラスト近くの「先輩、俺今恐くてたまらないです」からの転調加減が、クサクならずストレートな感情を伝えてうまいなあ。 こういうしっとりした作品を3位に選んでくるあたり、Aブロックの読み手さんもまたなかなか。</p>
A11	幸せ	<p>4 pt 8 位 2 sp</p> <p>ぬ？ これはハーゲンダッツをお茶会で出せ、という要求か？ ということで叶えてみました特別お茶会。楽しんでいただけただしょうか。 お金持ちの夢がハーゲンダッツだなんて、そのささやかさに笑いつつ、等身大トークに共感。ちょうど眠る前にぼんやり思うような、そんな力の抜け具合がここちよかったです。 特別賞：賞（なんか良かった）/俺もそう思うで賞 イチオシフレーズ：「アイスは迷わずハーゲンダッツ」</p>
A12	金井と金子	<p>2 pt 9 位 1 sp</p>

ラストは孤独な幽霊さん。
金井と金子、出席番号順の席なんでしょうね。夕陽に照らされたくたびれた財布が悲しみを誘います。
そして誰もいなくなって……一幕の劇を見終わったような、裏表紙にふさわしい作品でした。
特別賞：金子賞（委員長推薦により）

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	\$ Las Vegas \$	9 pt 欲望の街ベガス。地名の持つイメージ喚起力を最大限に引き出して、あの砂漠の街の魔力がひしひしと伝わってきます。 ベラージオにクラブス。ていねいに調べられたフレーズたちが力強く宙に舞う。ショーの始まり気分の今週の表紙でした。	3 位	0 sp
B02	二人の王子	6 pt こちらの首領は童話を添えて。 届くはずなどないけれど、この閉塞状況、どうにかしてよね王様ならば、という祈りに似た気持ちが冗談めかした口調のあいまから伝わってきます。 特別賞：金賞（意外と深い）/万歳（マンセー）賞/金（キム）賞（きわどいネタでよくがんばった）	5 位	3 sp
B03	沈黙と雄弁	6 pt みっしりと書き込んで立ち上がってくる骨太の父親像。 ラストに響き「行ってらっしゃい」がせつない。たんたんとして述べているのに、ずしんと。沈黙は金、というタイトルにこめられたお題が気づかれにくかったか。 特別賞：お題スルー賞（「金」がどこか分からなかった）	5 位	1 sp
B04	若さと、情熱と	1 pt 調べてみました。地域限定の甘～いコーヒー、とか。 みごとに自販機のワナにはまったくやささがせつせつと。ド派手な黄色い缶の目にしみるイエロー、よりハゲしく描写してみてもおもしろかったのでは。 キャンパスで買えるんだそうで、探してみてくださいませ。 特別賞：ダダダダ賞（MAX COFFEEのチョイスが良い）/Max賞（着眼良し） イチオシフレーズ：「こんなの地元にはねえよ」	10 位	2 sp
B05	価値	4 pt こちらも一つCM風。価格設定も緻密に、1行1行にていねいにネタが仕込んであって楽しかったのですが、ラストが楽屋オチっぽくてちょっと残念。 特別賞：プライスレス賞（本当に貴方大丈夫ですか？）/あるある賞 イチオシフレーズ：「発酵中の教科書」	8 位	2 sp
B06	Smile Alchemy	0 pt 出ました！ セカチュー的純愛まっしぐら。 ベタだなあと笑いつつ、でも気づけば、しっかり感情移入して、くしゃくしゃの笑顔をいとおしくなっている自分がある。 総身が総毛立つ、もとい、うっとりする口説き文句を貫いて貫いて、ついに本選をゲットしたto get herさんに拍手！ 特別賞：香取賞/作者出てこい賞（セリフがくさい）/実際に言われたら引くで賞/はずかしいで賞（甘ずっぱ） イチオシフレーズ：「もし君が石だったとしても僕が錬金術で君を石に変えてみせるよ」×3 「どうして、私といてくれるの？」 ということで、ポイントこそgetできなかったものの、みごと最多特別賞受賞get、かつ渾身の口説き文句も大ヒットでした。	11 位	4 sp
B07	本当の宝は消しゴムの中	10 pt おお、なるほどね！ とラストでナットクのどんでん返しでした。 消しゴムという小道具がうまいなあ。懐かしさを誘いつつ、モノも隠せちゃう両面性に着目した組み立てがナイス。 できればタネアカシをタイトルでなく、描写の中で見せたかったか。 ミステリーなんだけど、なぜか猿轡がわけもなくはずれちゃう、なんていう展開のバカバカしさに大ウケです。作風変えての価値ある2位、おめでとう。	2 位	0 sp
B08	夏の風物詩	8 pt ようやく出ました、(一部)TA陣待望の正統派コラム。今日は金魚のお勉強。 由来は、品種は、そして長生きさせるコツはね？ とすっきりした構成で親しみやすく読みました。 しかし、池のないふつうのおうちはどうしたらよいのでしょうか？ 特別賞：逆に新鮮で賞（コラムだから）/これぞ一つ頭が良くなる話で賞（本当のコラムで良かった）	4 位	2 sp
		0 pt	11 位	0 sp

B09	金色の髪	<p>金髪に真っ赤な口紅、派手派手しく、でも謎な光景が続いたあとの「あなた」のひとことが大インパクト。 誰に何を伝えたい「あなた」だったのか想像が刺激されます。実際、何だったのでしょうか？ イチオシフレーズ：「あなた」</p>		
			6 pt	5 位 0 sp
B10	未来の値段	<p>こちらは「手のひらの中の1億円」が大インパクト。 白昼夢。競馬のスピード感に乗せて、ぐいぐい運んで、説明っぽいところがほとんどないのに、ああなるほどねとラストですとんと着地。 ストーリーの削り方の、ひとつ模範となりそうな手際良い展開でした。</p>		
			3 pt	9 位 0 sp
B11	金欠	<p>ラスト近くはお疲れでしょう。んで、さくっと戯れ句。 理屈は通ってるけど、なぜに「法隆寺」かが謎。</p>		
			37 pt	1 位 1 sp
B12	一つ頭が良くなる話	<p>「アンドレ、恐ろしい子」と、まずは期待通りのセリフを進呈。 え～毎度バカバカしいお笑いを一席。今回はウラ表紙にてお目見えです。 よいですね～、刑法責めに中国古典、いわゆるひとつの縦横無尽というやつですね。もう、唾然とするしかありません。 がつつりポイントも稼いでいって、ついでにイチオシフレーズ大賞もさらって、とにもかくにも念願の首位！！！！ おめでとう&唐揚げくんに宜しく。 特別賞：たらこ賞 イチオシフレーズ：「いい - やああア - - - ツつぶおおううう！！」×3 「ぜんぶ」×3 「たらこころりん。たらこころりん」「昔々、ある所に、おじいさんがいておばあさんはいませんでした」</p>		